

なお貯蔵品決算の表意者は請求者であり、また配給票の発行者であるが、これを担当役・分任担当役等とするのは、予算の範囲内における請求であることを確実にしめるためのものであり、予算執行の責任者以外のものがみだりに物品を請求して、予算執行を乱すことを防止する意図をも有するためである。

物品送付書は甲（発行箇所控）乙（代価報告）丙（領収書）丁（送付書）の4片からなり、貯蔵品を決算の上調度用品を配給する場合には必ず発行するものである。

物品出納長（分任出納長を含む以下同じ）の出納命令を受けた配給票（配給命令書）を物品出納役が受けた場合は、すみやかに現品の配給準備を行い、その終るのを待って関係帳簿を払出すとともに、各現品受領箇所の物品出納役または物品出納員あてに、物品送付書を発行してこれを配給するのである。

調度用品は通常貯蔵品勘定から決算されるものであるが、文具・掃除具等資材局長が定める軽易な物品については、現場機関の長が、定められた予算内で直接当該経費で購入することができるのである。

つぎに調度用品はすべて費用に計上されたものではあるが、現品の存在する間はすべて物品出納役およびその分掌機関たる物品出納員の保管責任に属するのである。したがって備品については物品出納役は備品原簿を、物品出納員は備品保管簿を、備品扱品および消耗品については現品の所在する箇所の物品出納役または物品出納員において備品扱品保管簿または物品受取簿を、それぞれ備付けて出納・保管状態を記録しておくとともに、これらを亡失損傷した場合はすみやかにその現状および原因を調査し、亡失損傷報告書を作成して物品出納長経由で会計監査を担当する局所長あて提出し、責任の有無について検定を受けなければならない。また調度用品の出納は、物品出納長の出納命令によってなされなければならない。物品出納役または物品出納員がきりで出納することは許されない。ただし消耗品については、1回ないし数回あるいは短期間の使用により消耗し尽されるような軽微なものであり、かつ出納のひん度の非常に大きなものに対してはいちいち出納命令を行うことは事務能率を阻害するのみであるから、これらについては出納命令を省略することにしてはいる。なおこれら調度用品の取扱いについては、物品事務一般を規制するものとしての鉄道物品事務規程に準拠するのは当然のことであるが、この規程は調度用品事務に関しては要綱的な事項を規定するにとどまり、個々の事務処理には不便や不明確な点があった。したがって従来は各地方ごとに細則・手続等を定めて処理していたが、その規定内容は各地方ごとに異なり、諸種の面で不合理をまぬがれ得なかったので、これら各地方制定の諸規定を整理統合するとともに、処理手続の簡易化・明確化を図り、合理的に事務処理のできるようにするため調度用品取扱手続を制定して昭和30年度から実施することにした。本手続は基本規程としての鉄道物品事務規程のもとに存在する実務処理手続であるという意味において、各項目とも細部にわたり規定しているのである。（市原高之）

ちょうば 丁場 工事現場を作業上適当な区間に分けた一区間。工事を施行する場合企業者は、直営であろうと請負方式であろうと工事数量が大きく、延長の長いときは、小区間に区分して必要な建物を作り、また必要な人員を配置して工事を完成するわけである。長さは特殊の構造物のあるときなどは、わずかに数百mのときもあり、また平たんで構造物の少ないときなどは数kmにおよぶこともある。これらはだいたい地形または工事の種類・工事量とくに切取・盛土の関係、全工事の工程等によって決定されるものである。普通は800mから2,500mくらい

の区間を一丁場とすることが多い。また丁場の中でとくに隧道（ずいどう）だけの所を一般に隧道丁場、橋梁（きょうりょう）だけのところは橋梁丁場、一般のところを明り丁場といっている。（尾崎 寿）

ちょうほうけいホーム 長方形ホーム (英)rectangle platform 形が長方形を成しているホーム。中間駅では線路との関係で島式と相対式とある。地形により一概に論ずることは無理であるが、その得失はつぎのとおりである。島式は ① ホームの数が少ないのと、設備が兼用できるので建設費が少ない ② 本線路がホームをはさむので、ホームの前後に曲線ができる ③ 上下列車が同時に着発する場合に混雑する ④ しかし駅員の作業は同一ホームで上下列車とも兼用できる ⑤ 将来構内拡張に不便である。

相対式は ① 用地および諸設備が別個になるので建設費が多い ② 本線の両側にホームができるので本線路は直線となる ③ 上下列車が別々のホームに着発するので混雑しない ④ 駅作業が別々で要員が多くなる ⑤ 将来の構内拡張には便利である。駅の開設には将来発展すべき余地を十分考慮して計画すべきである。

また頭端駅も客操の位置により長方形と櫛（くし）形とある。客操が到着列車の先方にある場合は長方形となり、後方であれば櫛形となる。そのおのおのの特長はつぎのとおりである。長方形は ① 着発列車は本務機のまま引上げまたはすえ付ができる ② 到着機はそのまま前進して入庫できる ③ ホーム長が列車長と過走長のみでよい ④ 旅客が本屋とホームとの往來に線路横断となる ⑤ 手小荷物運搬も線路横断となる。

櫛形は ① 着発列車の引上げすえ付けには入換機を要する ② 到着機は機回線か別の線をもどらねばならない ③ ホームの長さは機関車が折返すための余分の長さを要する ④ 旅

長方形ホームと線路の使い方

